国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-120
ガラス使用

857-120

源氏十六 十七ヤシン 夜ヨリ十日ニ

六条わたりに出で給ひけり。源氏

殿なりやどりは大弐のめのとの

何がしの家なりけるとて、五条

家は狭くておはしけり。車い

かれば人も通はず。惟光めさせて

りしげるおほぢのさまに成

のるはしるべきといふ

ツ子ノシトニハ皆オロスヲロシハナカラ汁オロスヤウニシタルヲ花ニテハ

などもいと忍ぶるよしもなし

つきせずすごしてのぞくだちさま

帝国図書館

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

源のゝ君へこゝにとりさかへくき年ヽ悔ろくさこそいひすそうしひしたまえ

さうしひならんぜ法しうこゝとのかぎり侍りたまん　受戒シタマフ

こと侍らちおもほしう思ひたまへしゆへひしりどもむ　佐藤方ニアスニラレ

これたるうちみかくりてなんかくわつりおほ

しますを御めればぞてなんあるゞ佛のれひら

又も心ざらくまかれ待べきたゞならんてらは

げなく月ごろぞそりかくものをもうくをや

すゞしげなさわりつるよくも世をそむくる海

まもれしものへいと忍よくらおしうなんいのち

なかくて位などもとるしのへざそてこそ

のおれのみよきそりなくむまれ治ゆめ式　佐の十九宗上宗上生ノるすせびきい佛のといつてま宮大なる辞也

世よすこしそこのこゝろはわろさわざとなんとさく

孟　細繆　日本紀　選　延喜式　此両字ニ両書ナシ　細繆也　顛忽ノ心ナリロカナルホノ字清テヨムベシ河ニラサナク

片サリナルロヽこといひかくゆへ云々かくらなのをなすもあらて源ハいふそう

今ニ說共ニ不叶　眞大帆　片帆ヽ　方ニ二千トキニテニテヨム眞大手ニニテ一千ニテ片手ト云ニ對スル辭也　又眞帆ニ對スル

片帆モ眞帆ニ對スル辭也

など聞ぐらその綴ぞるとぶまめれとやうの　地ヲロクデモナキ主人ニアサル

やうべき人はあまうしうまむりたまひ地をとも　ヒイキニ

ていとおぼつまうたりさひつまりけん我も　贔屓也　ムツマシクシタシキ也

いそらくかうじけるおもはゆべかめれどすゞろ

またなるがちなりこともいとこゝろしと思

源ヲ音アナヅメルカラ身ノオモメジク面目アリテ是アカラ身ノイタハシキト也

片ホトネヨリ流カチナルト云也

てむらしきめる世のさりがうさやうまさけうら

ひろきけんそれのそとうさしろひめぐらす

とをみハいと哀とおぼしていそけなりけるほどよ

やうべきんでのうちすそゝまれしのひまけるか

ざりぞうむ人あまるあるやうなりしかどゞ

うしくおもひむろうすぢをまるなくるんおも

芙桜　つきこゝろひめぐいもし　漢語抄ニ

牛相贈　豆木之良比　仁賢紀　顧戀ヲ志良比ト訓　令留　鄭玄曰顧ヲ思ニ　後漢公孫瓚傳　顧戀　章懐太子注　又継体紀ヲ通字ヲココロシテキト訓　是ハ眞ヲ眞スル也

子丑ハモトキ咲ヘド源ハ咲エヨケズ　オホスニ

尼姿ヲ後悔ニ似タリ子丑ハサシツキテ咲ヒ目ニセシスル也

源羽更衣ニ三条ニテ別　祖母ニ六ツニテ別

ハシハム　羽含たゞウノ乳母ニアハレテ未揃ノ哀ニ三両人計物語ニハヒト沢ミニ惟メ三人ニ在也

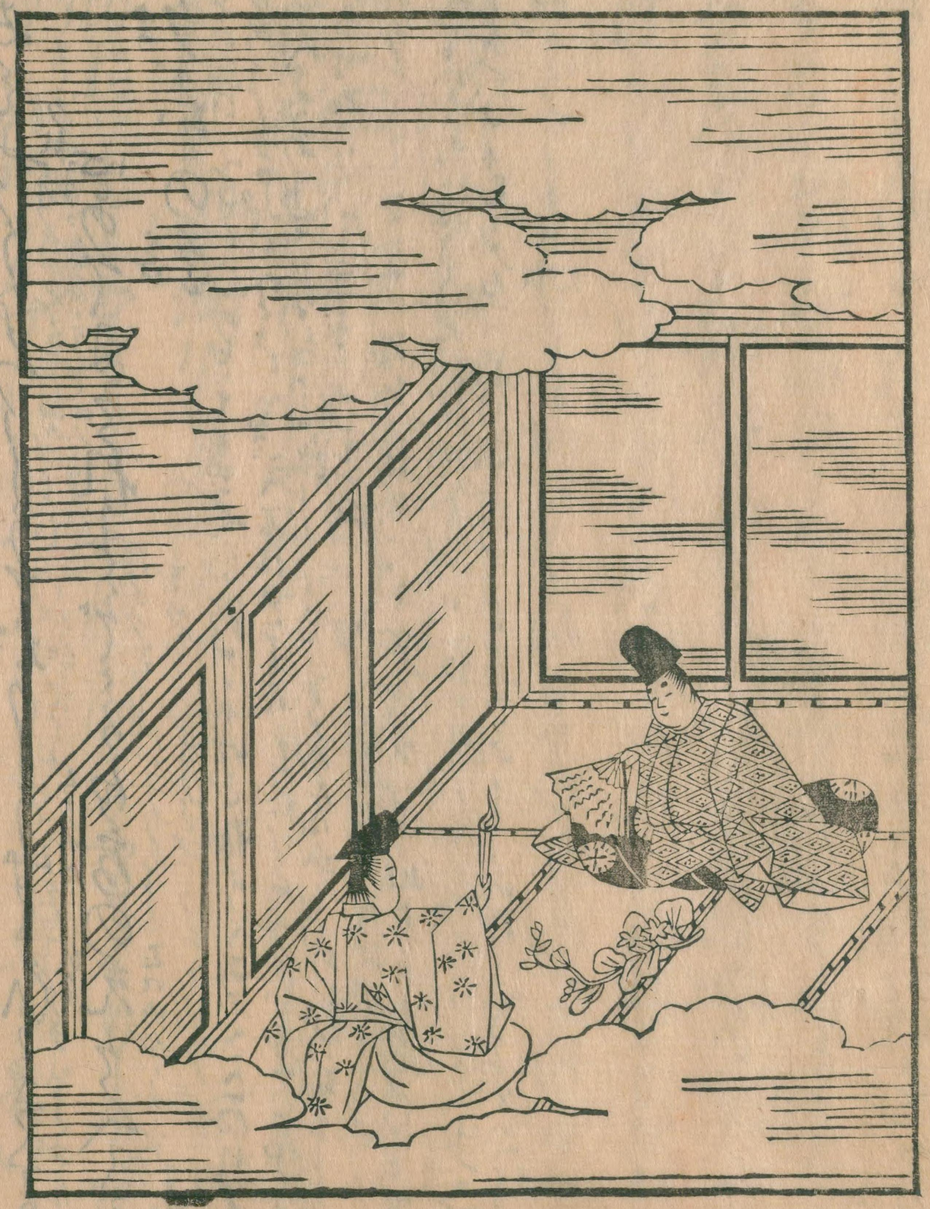
大殿ハ別也

[illegible]

ほしひとゝなりて後(のち)はかぎりあればあさ夕(ゆふ)にしもえみたてまつらず心のまゝにとぶらひまうづることはなけれどなを久(ひさ)しうたいめんせぬ時(とき)は心ぼそくおぼゆるをさらぬ別(わかれ)はなくもがなとなんこまやかにかたらひ給ひておしのごひ給へる袖のにほひもいと所せきまでかほりみちたるにげによにおもへばおしなべたらぬ人の御すくせぞかしと尼ぎみをもどかしとみつる子(こ)どももみなうちしほたれけり修法(すほう)など又々はじむべきことなどおきてのたまはせて出(いで)給ふとてこれみつにしそく召(めし)てありつる扇御らんずればもてならしたるうつりがいとしみふかうなつかしくてをかしうすさびかきたり

心あてにそれかとぞみる白露のひかりそへたる夕がほの花

[illegible]



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

やうめいのすけなる人の家になん侍りける。おとこは
いなかにまかりて、めなんわかくことこのみて
はらからなど宮づかへ人にてきかよふと申す。
くはしきことは、下人のえしり侍らぬにや、と
きこゆ。さらばその宮づかへ人ななり。したりがほに
ものなれていへるかなと、めざましかるべき
きはにやあらんとおぼせど、さしてきこえかかれる
心のにくからず、すぐしがたきぞ、例のこの
おもからぬ御心なめるかし。御たたう
がみにいたうあらぬさまにかきかへ給ひて
よりてこそそれかともみめたそかれにほの
ぼのみつる花の夕がほ。ありつる随身して
つかはす。まだみぬ御さまなりけれど、いとしるく
思ひあてられ給へる御そばめを見すぐさで、さしおどろかし
けるを、いらへ給はでほどへければ、なま
はしたなきに、かくわざとめかしければ、あまえて
いかにきこえんなどいひしろふべかめれど、めざましと
思ひて随身はまゐりぬ。
御さきの松ほのかにて、いとしのびて出給ふ。
半蔀はおろしてけり。ひまひまより見ゆる火のひかり
ほたるよりけにほのかにあはれなり。
御心ざしの所には、こだちせんざいなど
なべての所ににず、いとのどかに心にくく

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

まちゆ丸がほなりうるつるめ人を衣とおぼさぬ
ましもあらねどつれなくてさてゐるらんことの
ちげしそれがまげしるるのうろこうてくと
おぼせ程に伊与のせけのかりぬまげいそぎまい
れりふかうちのしわざとて すこしくろこやつれたる
接すぐるいとふつくうに心づきるし されど人もい
やしからぬすぢにうちなどもびこれどきたげ
まてこぐなるぞかしきよしづきてなどぞあり
ける國の相譜などもに ゆげこもいくつとといまほし
くおぼせどあひなくまがゆくて れこころの中に
おぼし出ることも海ぐなり おまめやうなるか

おとるる波かく思もげにおこがましう 宇志ろめたき
わざなりやげにこれぞなれめなるぬうるなるめる
とむまのうこのいさめおぼし出ていとおしきに
つれなきこれとこそれど人のこめは衣とおぼし
なさるむすめをはさるべきひとにはづかて小乃
すをばねてくぐりぬべしとさくなるひとうるな
らぬ心あるしこしてこそ今一こびいえあるまじき
ことにやとこぞこ波うるしひなへど人のこころを
あるせしらんことにてぐるにうろうるにえしも
まぎれ給まじきぬまして小児ノ仲人ヲ
ていまさしるにぐるしうるべしとしひとるれたり

さすがにしておもほしますまなんとも。いと
いふかひなくうるべきことにしてさるべきおり
くの御いらへなどなつかしくきこえつゝなげの
ふぞづかひにつけしることの楽。あやしう
しげにめとまるべきふしくそへなどして。衣と
おぼしぬべき人のけはひなれば。つれなくねたき
ものにすれがたきにおぼす。いま一うちとけぬべくこえしさ海
つゝくなる。かたらぎうちとけぬべくこえしさ海
なるをこのこえてとまくこえしまへど。御こゝろもう
ごかずぞ。何りける。秋にもなりぬ。人やりとなりぬ心
ぼくしにおもほしこゞること。何りて。大殿にハ

こしまの玉つゝうらめしくのこゝろしきまへり。
六条わたりまもとけがたうりし。御乳色をおもむけ
きこえしなて。後ひきうへしなれめるらんいとを
しきされどよりてなりし。御心まどひのやうに。
あるかぐちなることいなきもいかるることにかと見て
しり。めいとおとあまりなるまでおぼし志見
こゝろ御心ざ海にて。よろしひの程もまげるく人のまり
きこゝろんにいとぐくつゝきこゝろ御よがれの。ねぎあく
おぼし志ほなくこと。いとさ海ぐなり。雪れいと
ふるさなしこゝ。いとくそ回のうきれなひて。きふげ
なるこゝ又にうちなけきつゝ出るを。中ねのおもと。

女君二

みかうし一間あげて見たてまつりおくり給へと
おぼしく御几帳ひきやりたれば御ぐしもたげて
見出し給へり前栽の色々みだれたるを過がてに
やすらひ給へるさまげにたぐひなしらうのかたへ
おはするに中将の君御ともにまゐる紫苑色の
をりにあひたるうすもののもあざやかにひきゆひ
たるこしつきたをやかになまめきたり見かへり
給ひてすみのまのかうらんにしばしひきすへ給へり
うちとけたらぬもてなしかみのさがりばめざましくも
と見給ふ　さく花にうつるてふ名はつゝめども
をらで

過うきけさの朝がほ　いかゞすべきとて手をとらへ
給へれば　いとなれてとく　中将　朝霧のはれまも
またぬけしきにて花に心をとめぬとぞ見る
とおほやけごとにぞきこえなす　をかしげなる
侍童のすがたこのましうことさらめきたる
さしぬきのすそつゆけゞに花の中にまじりて
朝がほおりてまゐるほどなど絵にかゝまほしげなり

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

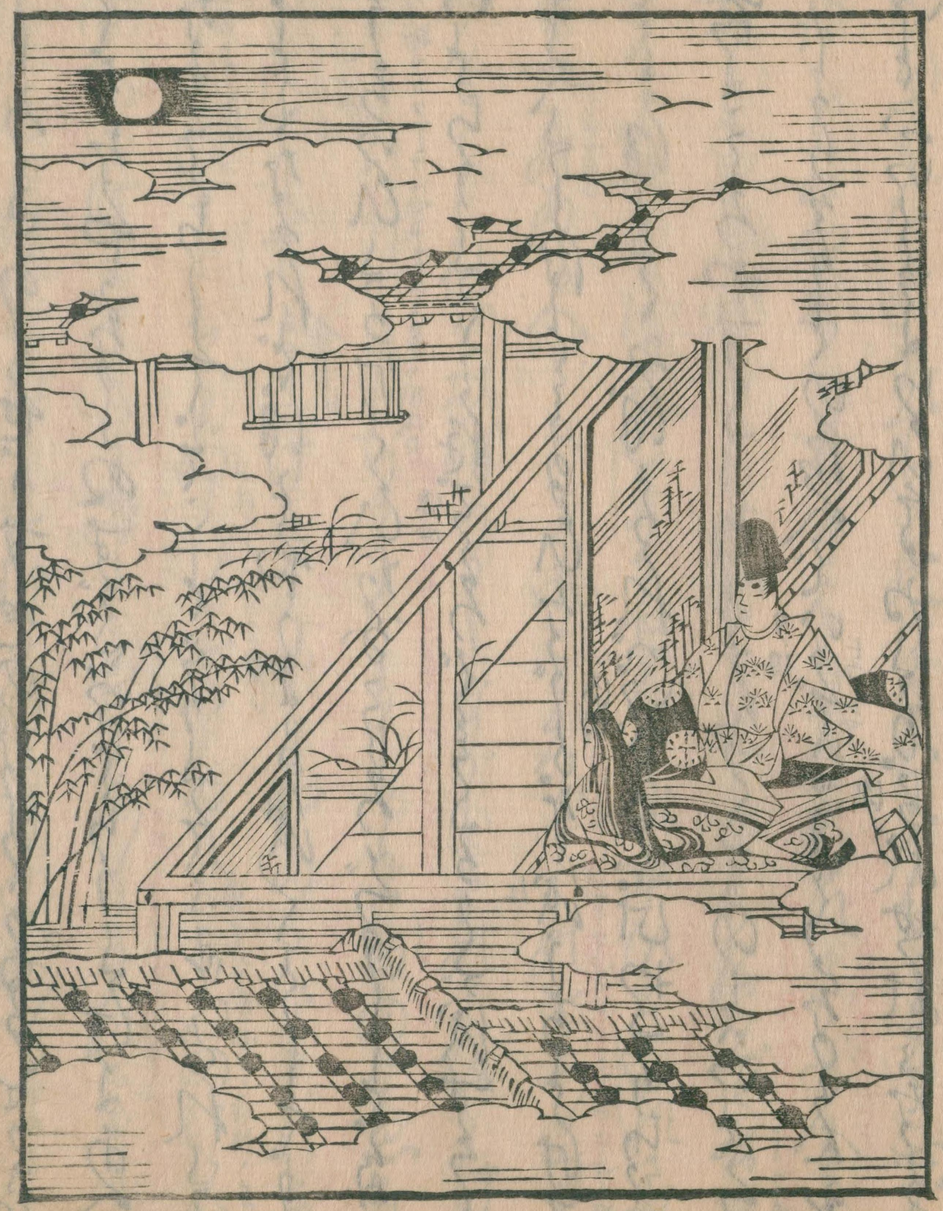
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

まゐらす。右近がいはんことさすがにいとおしければ
ちかくもえさぶらひよらず。かくまでたどりあ
りき給ふをかしうさもありぬべきありさまにこそ
はとおしはかるにも我いとよく思ひよりぬべか
りしことをゆづりきこえて心ひろさよなどめざまし
う思ひをる。たとしへなくしづかなるゆふべのそ
らをながめ給ひておくのかたはくらうむつかしと
女は思ひたれば。はしのすだれをあげてそひふし
給へり。夕ばえを見かはして女もかかるありさまを
思ひのほかにあやしき心ちはしながらよろづ
のなげきわすれてすこしうちとけゆくけしきいと

らうたし。つと御かたはらにそひくらして。物
をいとおそろしと思ひたるさまわかう心ぐるし。かう
しとくおろし給ひて。おほとなぶらまゐらせて名
残なくなりにたる御有様にてなほ心のうちのへだて
のこし給へるなんつらきとうらみ給ふ。うちに
いかにもとめさせ給ふらんといづこにたづぬらんと思し
やりてかつはあやしの心や。六条わたりにも
いかに思ひみだれ給ふらん。うらみられんに
くるしうことわりなりと。いとおしきすぢはまづ
思ひきこえ給ふ。何心もなきさしむかひをあはれと
おぼすままに。あまり心ふかくみる人もくるしき

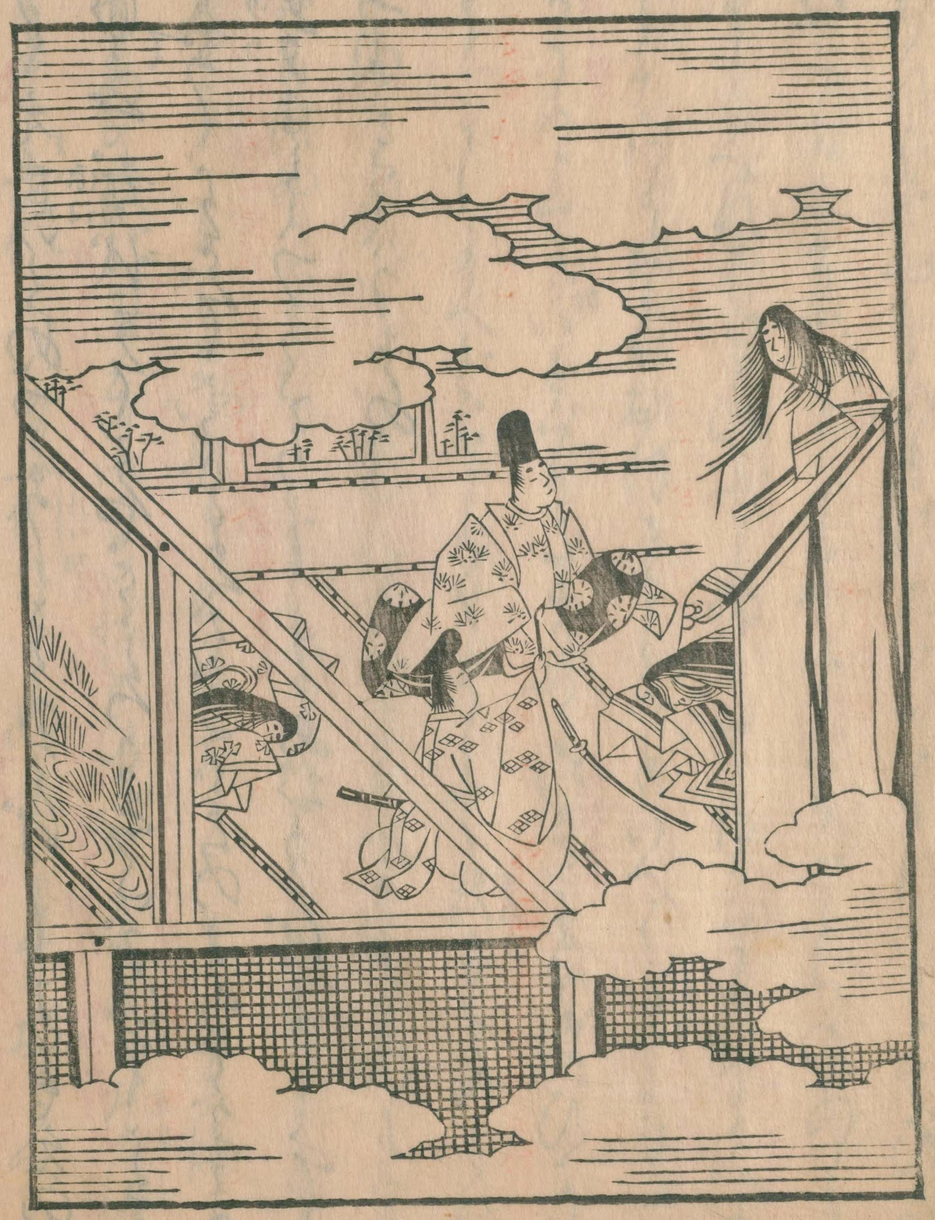
国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

あればさやうのものにはおどされじとてひき
おこし給ふ。いとうたてみだりごゝちのあし
うはべればうつぶしふして侍るや。おまへこそ
わりなくおぼさるらめといへば、そよなどか
うはとてかいさぐり給ふに、いきもせず。ひき
うごかし給へど、なよ〳〵として我にもあらぬ
さまなれば、いといたくわかびたる人にて、ものにけ
どられぬるなめりと、せんかたなき心ちし給ふ。
しそくもてまいれり。右近もうごくべきさまに
もあらねば、ちかき御木丁をひきよせて、なほ
もてまいれとのたまふ。例ならぬ事にて、御まへち

かくえまいらぬつゝましさに、なげしにもえの
ぼらず。なほもてこや。所にしたがひてこそ
とてめしよせて見給へば、たゞこのまくら
がみに、ゆめに見えつるかたちしたる女、
おもかげに見えて、ふときえうせぬ。



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

もらしつべきけんぞくもたちまじりたらん。
まづこの院をいでおはしましねといふ。さてこれより
人ずくなゝる所はいかでかあらんとのたまへばげに
さぞ侍らんかのふる郷は女房などのかなしびに
たへずなきまどひ侍らんにとなりしげく
とがむるさと人おほく侍らんにおのづから
きこえ侍らんを山寺こそなほかやうの
ことおのづからゆきまじりものまぎるゝ
こと侍らめとおもひまはしてむかしみ
たまへし女房のあまにて侍る東山の
へんにうつしたてまつらん。これみつが父の
あそんのめのとに侍りしものゝみづはぐみ
てすみ侍るなり。あたりは人しげきやうに
侍れどいとかごかに

閴 カコム カジゴリ

侍りときこえてあけはなるゝほどのまぎれに御車よす。
この人をえいだきたまふまじければうは
むしろにおしくゝみてこれみつのせたて
まつる。いとさゝやかにてうとましげも
なくらうたげなり。したゝかにしもえ
せねばかみはこぼれいでたるもめくれ
まどひてあさましうかなしとおぼせばなり
はてんさまをみんとおぼせどはや御む
まにて二条の院へおはしまさん。人さは
がしくなり侍らぬほどにとて右近をそへて
のすればかちより君にむまはたてまつりて
くゝりひきあげなどしてかつはいとあや

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-120
ガラス使用

さびとゝつゝひ「尼ヨリ申オコセ」ゝとゝ
ゝりなげさひしものゝいまハのゝさぎゝまゝつゝし
とや思ゝんとゝおもへてまゝりしまゝそれ家なり
けるゝ下人のやまひしけるが俄まえいきあへぞる
なくなまけるをおぢさぐりて日をろうしてなん
とりいぞ伝けるはさてつけ伝しうば神ゝすなる
比いとゝつびんなりしとくゝおもへがしこまりて
えまいらぬなり此暁より志はゞきやゝうや伝ん
りしらいといくてくるしく伝れバいとむらいて
罪ゆるさなどのゝまゝふ中将さらばさるよしを
まゝて奏し伝らめ和辺も此あそびまゝしこくも

とめなしせのひて此字義あしき伝さとこさて
のひて、さらかへりいかなるいきぶれまゝらぬ
のふぞや、のべやしせのふしとゝそ、まゝとくも思ふ
のへられもといふ。ひ手もつぶれのて、かくこ返
りまゝしなんで、さゝおぼしめけがしひまゝれしる
りしとそうしのへいとゝそ、退々こ逆ニシテ
つれるくののへどうろのうちまはいふひなく
なるしこゝとをおぼすよ此心ちもなやましかれば
人まめもこゝあるものなず。義人の辞をあしゝまて
まゝめやかまゝらしをそうをさせのへ、おほとれ
などまもゝらこゝとなりてえ氣しめ。御をうそこ

など聞えつゝ日くれて惟光朝臣まゐりかゝるけがらひ
ありとのたまひてまいる人〳〵もみなたちながら
まかづれば人しげからず。めしよせていかにぞいま
はとみはてつやとのたまふまゝに袖を御かほにおし
あてゝなき給ふ。これみつもなく〳〵いまは
かぎりにこそはものし給ふめれ。なが〳〵とこもり
侍らんもびんなきをあすなん日よろしく侍れば
とかくのこといとたうとき老僧のあひしりて侍
るにいひかたらひつけ侍りぬるときこゆ。そひたりつる
女はいかにとのたまへばそれなんまたえいくまじく侍め
るわれもおくれじとまどひ侍てけさはたにゝ

おちいりぬべくなん見給へつるかのふるさと人に
つげやらんと申せどしばしおもひしづめよとの
さまおもひめぐらしてとなんとかくこしらへ侍り
つるとかたりきこゆるまゝにいといみじとおぼして
われもいと心ちなやましくいかなるべきにかとなん
おぼゆるとのたまふ。なにかさらにおもほしものせ
させ給ふさるべきにこそよろづの事侍らめ。
人にももらさじと思ふ給ふればこれみつおりたちて
よろづはものし侍るなど申す。さかしさみなおもひ
なせどうかびたる心のすさびに人をいたづらになし
つるかことおひぬべきがいとからきなり。少将

少将の命婦などにもきかすな。あまぎみましてかやう
のことなどいさめらるゝを、心はづかしくなん覚ゆ
べき、とくちがため給ふ。さらにことほうしばらなども
みないひなすさまことに侍る、ときこゆるにぞかゝり
たまへる。ほのきく女房など、あやしく何ごとならん、
けがらひのよしの給て、内にもまゐり給はず、又かく
さゝめきなげき給ふと、ほの〴〵あやしがる。
さらにことなくしなせ、とそのほどのさほうの給へど、
なにか、こと〴〵しくすべきにも侍らず、とて
たつが、いとかなしくおぼさるれば、びんなしとおも
ふべけれど、いま一たびかのからを見ざらんが、

いといぶせかるべきを、馬にてものせんとのたまふを、
いとたいだいしきこととは思へど、さおぼされむは
いかゞせん。はやおはしまして、夜ふけぬさきにかへら
せおはしませ、と申せば、このごろの御やつれにまうけ給へる
かりの御さうぞくきかへなどして出
給ふ。御心ちかきくらし、いみじくたへがたければ、かく
あやしきみちに出たちても、あやうかりし物
ごりに、いかにせんとおぼしわづらへど、猶かなしさ
のやるかたなく、たゞいまのからを見では、又いつの
世にかありしかたちをも見んと、おぼし念じて、
例の大夫ずいじんをぐして出給ふ。

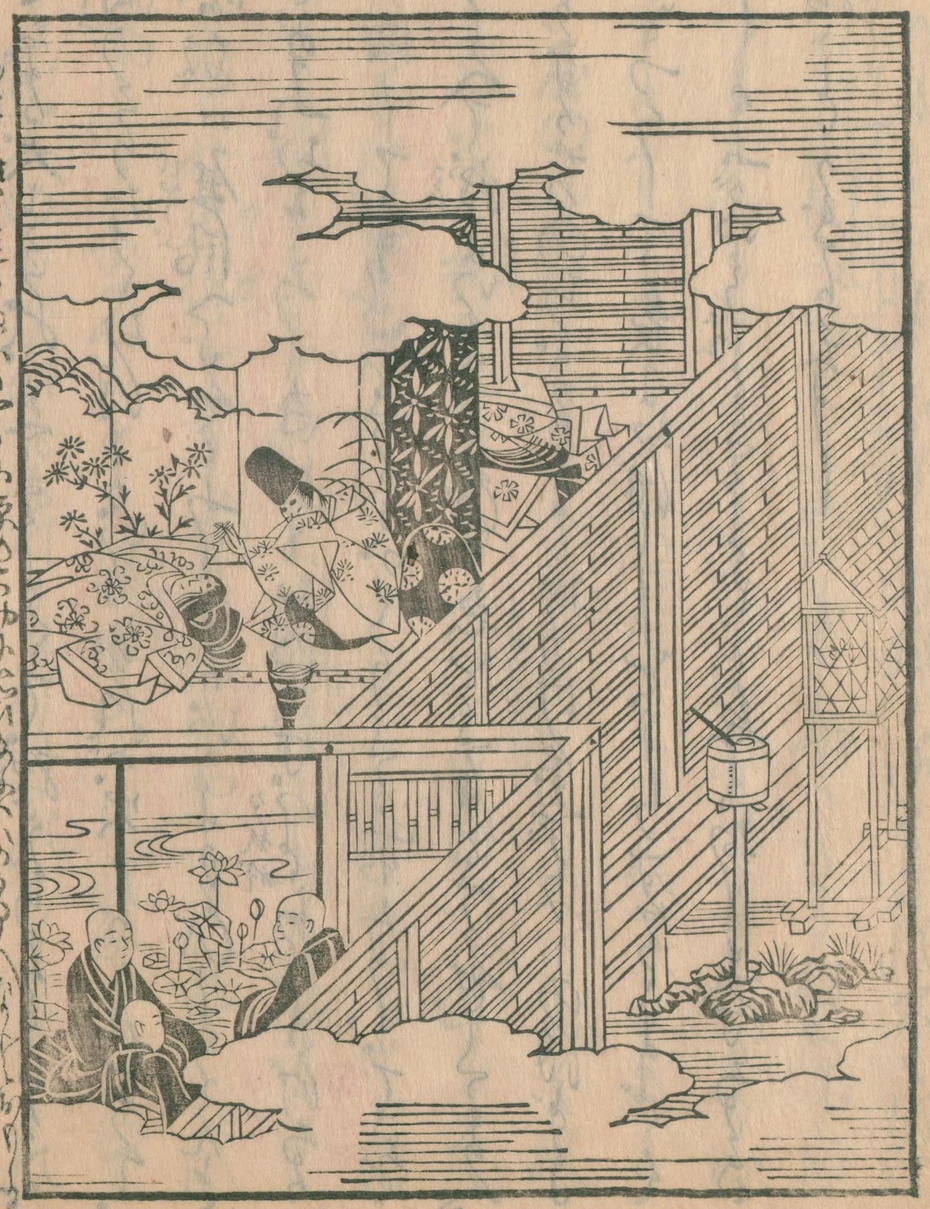
八月十七日

日の月さし出て、かはらのほど、御さきの火もほのかなるに、鳥べのゝかたなど見やりたる程など、物むつかしきも何ともおぼえ給はず、かきみだる心地し給ひておはしつきぬ。あたりさへすごきに、いたやのかたはらにだうたてゝおこなへる尼のすまひいとあはれなり。みあかしのかげほのかにすきてみゆ。そのやには女ひとりなくこゑのみして、とのかたに法師ばら二三人物語しつゝ、わざとのこゑたてぬ念仏ぞする。寺々の初夜もみなおこなひはてゝいとしめやかなり。清水のかたぞひかりおほくみえ、人のけはひもしげかりける。このあまぎみの

十七日夕顔ノ三

縁日

こなる大とこのこゑたふとくて経うちよみたるに、涙ののこりなくおぼさる。いり給へれば、火とりそむけて、右近はびやうぶへだてゝふしたり。いかにわびしからんとみ給ふ。おそろしきけもおぼえず、いとらうたげなるさまして、まだいさゝかかはりたる所なし。手をとらへて、我にいま一たびこゑをだにきかせ給へ。いかなるむかしのちぎりにかありけん、しばしのほどに心をつくしてあはれにおぼえしを、うちすてゝまどはし給ふがいみじき事と、こゑもおしまずなき給ふことかぎりなし。



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

ふかき御ありきをば・人みぐるしきわざかな・この
ごろ例よりも志づ心なき御しのびありきのしき
るなかにも・昨の御けしきのいとなやましう
おぼしたりしに・いかでかくたどりありき給ふらんと
なげきあへり・まことにふし給ぬるまゝにいといたうくるし
がり給ひて・二三日になりぬるに・むげによ
はるやうにし給ふ・内にもきこしめしなげ
くことかぎりなし・御いのりかた〴〵にひまなくの
のしる・まつりはらへ・ずほうなど・いひつくすべくもあら
ず・世にたぐひなくゆゝしき御ありさまなれば・世にながく
おはしますまじきにやと・あめのしたの人のさは

ぎなり・くるしき御心ちにも・かの右近をめしよせて・
局などちかくたまひてさぶらはせ給ふ・これみつも
心ちもさはぎまどへど・おもひのどめて・この人のたづき
なしと思ひたるを・もてなしたすけつゝさぶらはす・
君はいさゝか隙ありておぼさるゝ時は・めしいでて
つかひなどすれば・ほどなくまじらひつきたる
ぶくいとくろうして・かたちなどよからねど・
かたはに見ぐるしからぬわか人なり・あやしう
みじかゝりける契にひかされて・我も世にえある
まじきなめり・年ごろのたのみうしなひて・心ぼそ
く思ふらんなぐさめにも・もしながらへばよろづにはぐゝまん

はぐくまんとこそおもひしかほどもなく又たち
そひぬべきが口おしくもあるべきかなと。忍び
やかにのたまひて。よはげになき給へば。いふかひなき
ことをばおきて。いみじくおしとおもひきこゆ。殿の
うちの人あしをそらにおもひまどふ。うち
より御つかひ。あめのあしよりもけにしげし。おぼし
なげきおはしますをきゝ給ふに。いとかたじけなくて。せめ
てつよくおぼしなる。大殿もけいめいし給ひて。おとゞ
日々にわたり給つゝ。さまざまのことをせさせ
給ふしるしにや。廿余日いとおもくわづらひ給ひつ
れど。ことなるなごりのこらず。おこたるさまにみえ給ふ。

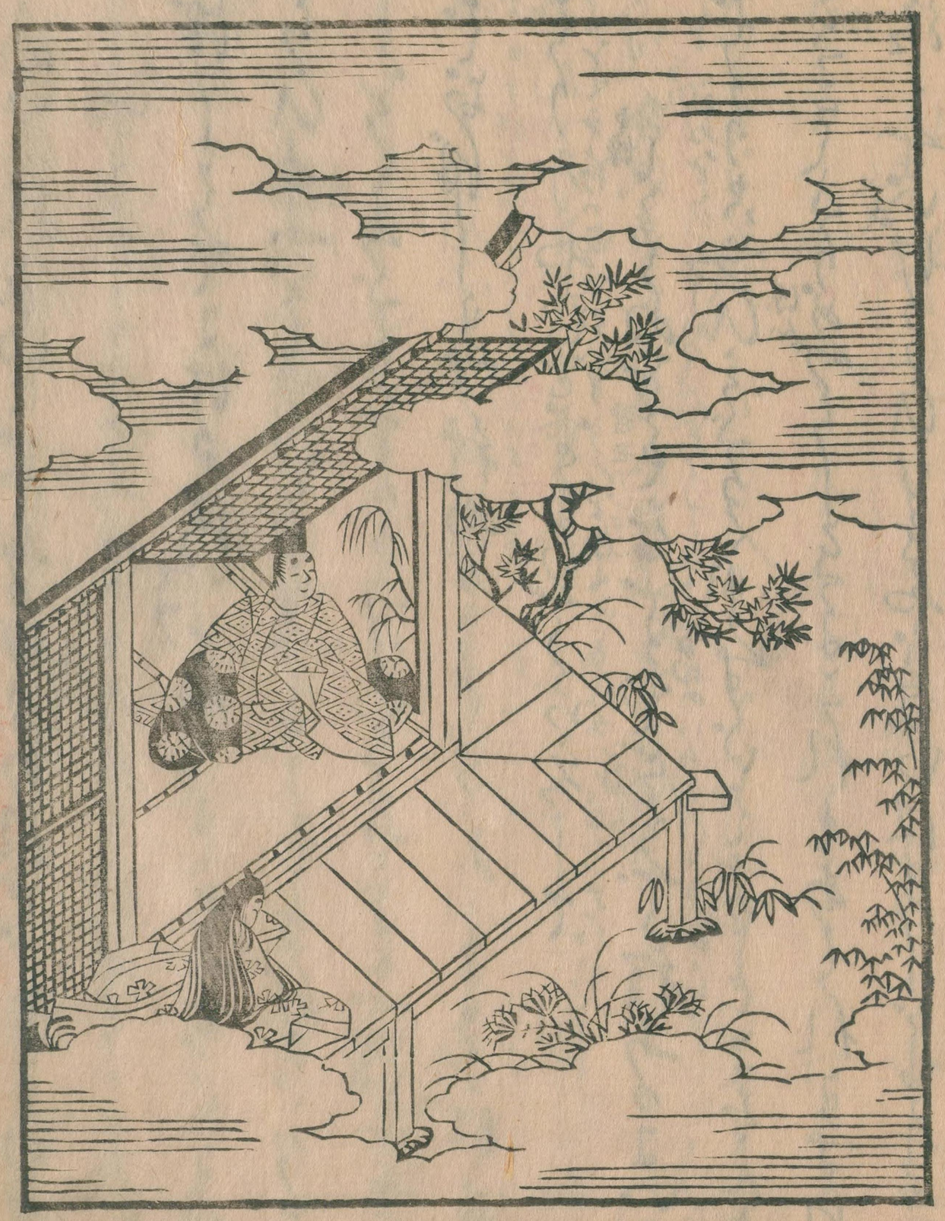
九月十六七日比ナリ

けがらひいみ給ひしも。ひとつにみちぬる夜な
れば。おぼつかながらせ給ふ御心わりなくて。
内のとのゐ所にまゐり給ひなどす。大殿のわが御車
にてむかへたてまつり給ひて。御物いみなにやと。
むつかしうつゝしませたてまつり給ふ。我にもあらず
あらぬ世によみがへりたるやうに。しばしはおぼえ給ふ。
九月廿日の程にぞ。おこたりはて給ひて。いといたく
おもやせ給へれど。中々いみじくなまめかしう
て。ながめがちに。ねをのみなき給ふ。見たてまつり
とがむる人もありて。御物のけなめりなどいふもあり。
右近をめし出て。のどやかなる夕暮に。物語などし給ひて。

あはきて。いよく衰もまさりぬ。おされき人まゝ
りしこゝりと。中将のうれへしはさる人やとゝひぬふ。
しかおとくしの妻ぞもれしのへりし。女まゝて
いとらうたげになんと。四方の。さていづこまぞ。人は
さとはしらきぞ。我はえさせてよ。このとゝいるべくいこ
どおもふ。はかうこゝはいとうれしかるべくなんと
のまふ。かれ中将はもつこゝべかれどいふかひなき
かごとおひなんとざ海かうざ海はつけて。ゝくぐ
まんまとゞあるまじ。さ我。それあらんめれとなまど
はもことざ海はいひなして。もれをよりしなど
かうしひまふ。さしらばいとうれしくなん侍べき。かれ

ましの京まで。おひ出給ちんは心ぐるしうなむ。
ちかくしくあつかふ人なしとて。かしこまなんと
四方の。夕暮のしげかるまゝ。そらかれしきいと衰
ま。おまへのお栽かれぐは。笑しの者もなきかれて。
もみぢのやうくなごく目ど。思まうきてるやうは
おもしろき我こわくして。心より目をおかしき
はじらひかれど。かれ夕がれのやどを思出るもたづ
コレハ宜アリシ。行の中は家をとくいふ鳥のふりくかり
なくとまて給ふ。かれありし院はこのとりれなき
しと。いとおそろしと思ひたりしさ海のおもゝ親
はらうしくおもほしいでらるれば。幸はいくつ川はう

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用



もむひつこがりて芳香。みくかしかましかりし。

八月九日正長夜 千声万声無止時 白居易

こさめこの君をおぼし出るさへ恋しくてまさ

みくり御かりし砧と八月九日千声万声むかしにしたまへり。

万声無止時也

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

のすき〲しきが頭の君におぢきこえてやがて
くだりにけるにやとぞおもひよりけるこの家あるじぞ
西の京のめのとのむすめなりける三人そのこは
ありて右近はこと人なりければ思ひへだてゝ御ありさまを
きかせぬなりけりとなきこひけり右近はたかしかま
しういひさはがれんを思ひて君もいまさらに
もらさじとしのび給へばわか君のうへをだにえ
きかずあさましくゆくゑなくてすぎゆく君は夢をだに
見ばやとおぼしわたるにこのほうじし給ひて
又の夜ほのかにかのありし院ながらそひたりし
女のさまもおなじやうにて見えければあれたり

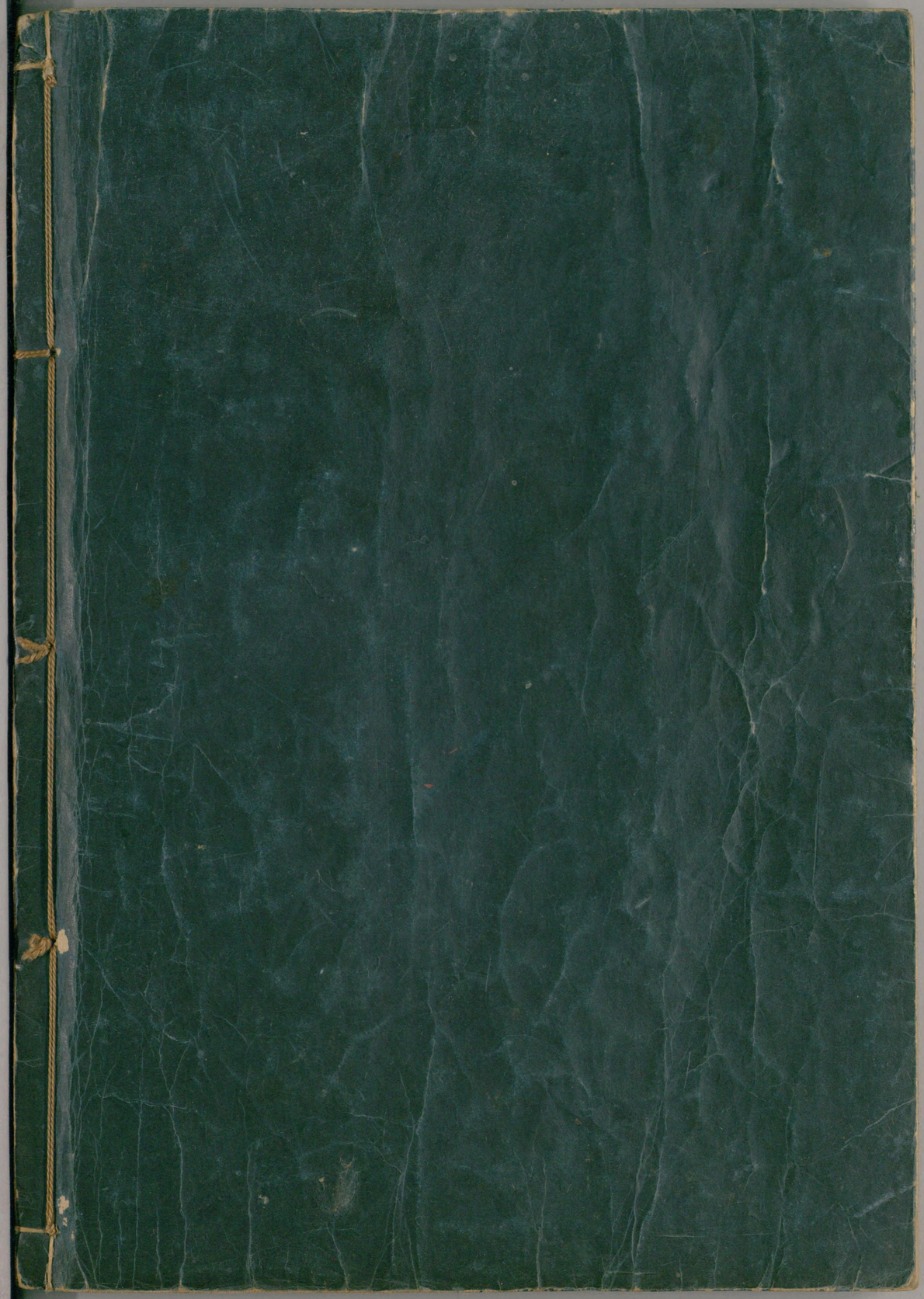
しところにすみけんものゝわれにみいれけんたよりに
かくなりぬることゝおぼしいづるにもゆゝしくなん
伊予のすけ神無月のついたちごろ
にくだる女房のくだらんにとてたむけ心ことに
せさせ給ふ又うち〱にもわざとし給ひて
こまやかにをかしきさまなるくしあふぎおほくして
ぬさなどわざとがましくてかのこうちぎもつかはす
あふまでのかたみばかりと見しほどにひたすら
袖のくちにけるかなこまかなることどもあれど
うるさければかゝず御つかひかへりにけれど小君

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-120
ガラス使用

857
120

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-120

ガラス使用